

○ やまぐちイクメン応援表彰の受賞者（5名）

（優秀賞は五十音順）

区分	氏名	取組内容
最優秀賞	<small>ふくもと なおあき</small> 福本 直晃 （和木町）	<p>○夫婦のスケジュールを1つのカレンダーで共有、妻が仕事の日には自分の仕事をうまく調整してくれることで、妻は安心して働くことができています。</p> <p>○どうしたら子どもが楽しんでくれるかを常に考え、家にあるもので新しい遊びを開発している。子どもが喜んだ遊びを妻に報告、妻はその情報を活用している。</p> <p>○もともと感情を表に出すタイプではなかったが、子どもが産まれてからはよく笑うようになった。</p>
優秀賞	<small>うえき つばさ</small> 植木 翼 （下関市）	<p>○妻の入院中は長女を支援センターに毎週連れて行き、他のママたちの中に混じって活動、長女の成長や他の子と触れ合う姿を見て感動していた。</p> <p>○長女の寝かし付けは妻、赤ちゃんの寝る前の授乳と寝かし付けはパパで分担、夫婦ともに睡眠時間を上手に確保。</p> <p>○次女のトイトレはパパが主導。好きなキャラクターのパンツをプレゼントする等の工夫により、トイトレを無事に完了。</p>
	<small>にしごおり たくや</small> 西郡 卓哉 （防府市）	<p>○妻の育休取得後に、交代して1年間の育休を取得し、育児と家事に奮闘する日々を送っている。</p> <p>○毎日、娘の朝食と身支度を済ませた後、子育て支援センターに連れて行き、昼食後に、また別のセンターに通っている。</p> <p>○妻が仕事から帰るとその日の出来事等を妻に欠かさず報告している。また、妻の心配事もしっかり共有してくれる。</p>
	<small>まさき たつや</small> 眞崎 達也 （長門市）	<p>○妻の第3子出産に併せて1カ月の育休を取得。出産に備えて家事・育児のレベルアップを図るべく色々と練習したり、夫婦で協力できるよう家事等のシュミレーションを行った。</p> <p>○出産後も妻への気遣いを忘れず、妻は日中ゆっくりする時間が確保できており、出産後の妻の体の回復も順調で家族で楽しい時間が過ごせている。</p> <p>○子どもたちからの質問に答えるため、一緒に調べたり、子どもが興味のある分野を先回りして調べたりして、パパも成長中。</p>
	<small>まつの しんべい</small> 松野 晋平 （周南市）	<p>○職場で初めて男性育休を取得。育休終了後も、時短勤務等を活用し、毎日長女を公園等に遊びに連れて行く。</p> <p>○「ミルク時間管理用のホワイトボード」や「スマホのTODOアプリ等の活用」、「定例家族会議の開催」を考案し、夫婦で上手に協力して育児を行っている。</p> <p>○長女誕生の際にインスタで子育てアカウントを作り、家族や友達以外からの子育て情報も積極的に取り入れている。</p>